【静岡県立静岡高等学校】

令和６年度　第２回　学校運営協議会（報告）

日時：令和６年 10 月 24 日（木）
午後５時～７時 20 分
会場：静岡高等学校　会議室

１　開　会

・校長挨拶
・日程説明

２　給食試食

３　学校概況説明（校長）

（１）学校経営計画説明
（２）定時制通信制に在籍する生徒数について
・定時制課程の現状と課題

４　授業参観（定時制）

５　協議・意見交換等

（１）感想

Ａ委員　：　和やかな雰囲気で授業ができている。
生徒個人の望む社会人像に合わせた長期的な教育ができるとよいのではないか。

Ｂ委員　：　保護者は、県立高校の定時制課程に生徒が安心して授業を受ける環境を望んでいると思う。落ち着いた雰囲気で授業ができているため、これを学校の特色として欲しい。

Ｃ委員　：　授業の雰囲気が良く、生徒が向上心を持って学んでいる。

Ｄ委員　：　以前の昼間に働いている生徒が学ぶ場からきめ細やかな支援が必要な生徒が学ぶ場となっており、時代の変化を感じた。

Ｅ委員　：　学校案内のデザインがあたたかみのあるものとなっている。卒業生からの在校時の話等を取り入れるとより良くなると思う。

Ｆ委員　：　学びを楽しめるように生徒を導く教員の努力が見られる。
潮流として授業の進行が早くなっているが、ゆっくり勉学ができる場として残して欲しい。

Ｇ委員　：　この場のように、教員でない方が高校をどうしていくかに関わることが重要である。
ICT 利用や生徒について、個人ではなく教職員でチームを組み対応して

欲しい。

（２）学校経営方針について

Ａ委員　：　現在のスクールミッションとポリシーは生徒を立派な社会人として育てることに主眼を置いているが、これは他の高校でも取り組んでいることである。静岡高校定時制がどのような立ち位置で生徒を育てるか特色を出さなければ定時制の存続が危ぶまれるのではないか。生徒個人の意見を汲み上げ学校経営計画書に反映させることが必要である。

Ｂ委員　：　現在は、義務教育の段階で競争があり生徒同士で忌避感がある。しかし、静岡高校定時制は生徒数が少ないため生徒間で連帯感や信頼感があるように見える。県立高校の定時制へ進学を希望する保護者は、このような場を求めているため「安心」を特色にしてはどうか。

Ｄ委員　：　クラスには入れないが、既に交友関係ができている部活動には参加できるという中学生もいる。このような生徒には、通信制や単位制にはない人とふれあえる場が必要でありそれを提供することが定時制高校の役割であると思う。

Ｅ委員　：　オルタナティブスクール等に通う中学生にとって、全日制高校に通うことが必ずしも本人のためになるとは限らないと思う。このような生徒に、きめ細やかな支援が受けられる少人数クラスで長所を伸ばすという選択肢を用意することも定時制高校の役割の１つだと思う。

（３）入学志願者への広報について

Ｂ委員　：　少子化により官民を問わず高校同士で、入学志願者の奪い合いが起きている。静岡高校定時制の良さをより伝えなければならないのではないか。

Ｅ委員　：　数字で表せない雰囲気等を評価してもらうことが重要である。動画の作成や外部へ説明に赴いてはどうか。

教　頭　：　外部の高校説明会にテナントを出店している。

Ａ委員　：　学校見学の来場者は、対面授業に理解のある方であると思う。来場者の方を大切にしてはどうか。

Ｆ委員　：　定時制に対する外部の認識が、昼間に働いている生徒が通う場のままで止まっている。認識を改めてもらう必要があるのではないか。

Ｅ委員　：　生徒に対してどのような支援をしているかをアピールするべきである。定時制県立高校全体で連携をして、マスメディアを通して定時制の定性的な良さを表すプロモーションをしてはどうか。

校　長　：　生活体験発表会と合同文化祭という定時制高校が連携して開催する場がある。これらへマスメディアの方に来ていただくことを考えたい。

Ｄ委員　：　広報は大切だが、定員である 40 名まで生徒が集まると、きめ細やかな支

援は難しくなる。定時制の良さを維持するためにも、定員は20名程度が適切ではないかと思う。

6　閉会・諸連絡

（1）　議事録について

後日、内容を確認していただき、ホームページへ掲載する。

（2）　今後の予定

第３回　令和７年２月上旬